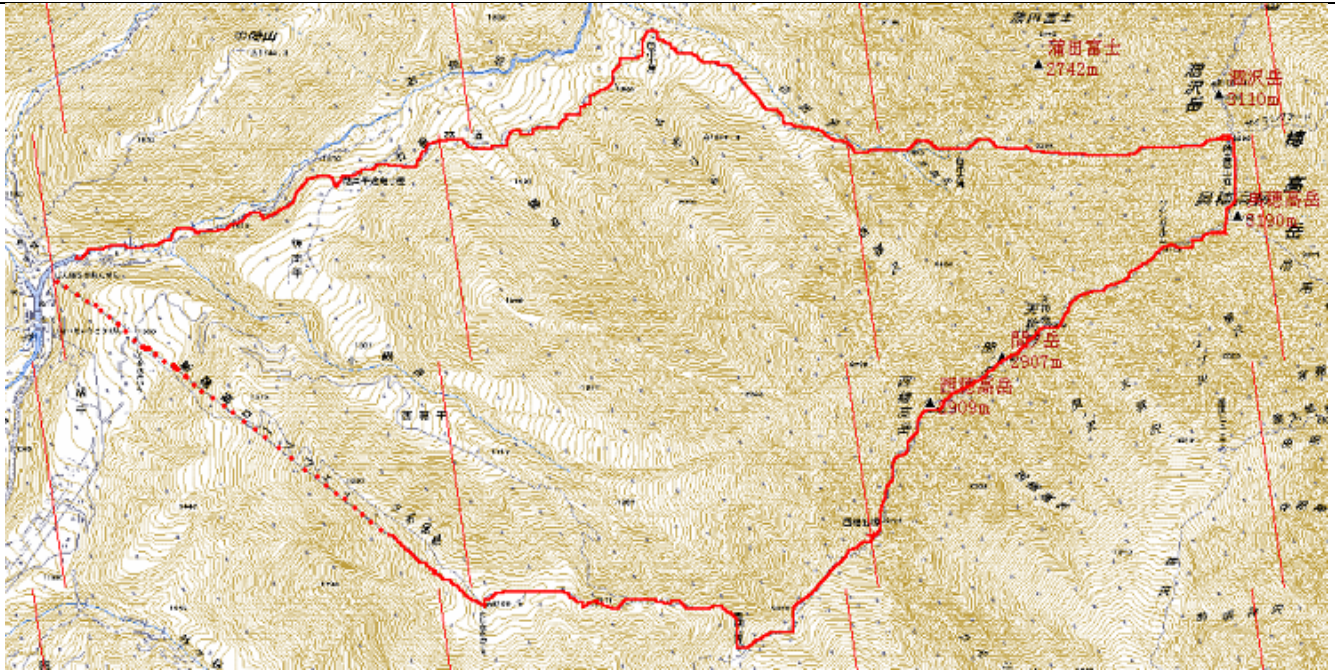


山行報告書

作成:2010年9月25日
愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	奥穂高～西穂高縦走 [北アルプス]	目的[方法]	秋の穂高を楽しむ
期間	2010年9月17日(金)～18日(土)	形態	小屋泊
参加人数	3人		
9/17(金) 晴れ/曇	奥飛騨上宝道の駅 TS1(520)⇒新穂高 P(530,556)⇒新穂高温泉 1100mBT(602,610)⇒穂高平小屋 (705,715)⇒槍平・奥穂高登山口分岐(805,825)⇒重太郎橋(913,926)⇒鉢石沢(947)⇒荷継沢(1018)⇒穂高岳山荘 2983mTS2(1337) 標高差 1880m 7時間 40分(休憩含む)		
9/18(土) 霧/晴れ時々霧/曇	TS2(525,536)⇒奥穂高岳 3190m(610,643)⇒ジャンダルム(820,830)⇒天狗のCOL(1011)⇒天狗ノ頭(1038,1048)⇒間ノ岳⇒COL(1204,1230)⇒P1(1318)⇒西穂高岳(1330,1345)⇒独標⇒西穂山荘(1543, 1548)⇒西穂高口山頂駅 2150m(1635,1645)⇒新穂高温泉 BT(1718, 1730)⇒新穂高 P(1735,1750)⇒栃尾温泉(1800,2000)⇒ 標高差 1040m 11時間(ロープウェイは含まず)		



日誌: 16日(木) 道の駅奥飛騨温泉郷上宝 22時10分着。22時30分就寝。(K氏車中泊)

17日(金) 平日の新穂高無料駐車場は全体の5割程度。BTにある登山指導センターは無人か? 山荘先へ予約とともに白出沢経由で登ることを伝え出発。右俣林道から奥穂高登山道に入り重太郎橋で3度目の休憩。(木橋が流されたり増水時は渡れない時もある。要確認) 垂直な梯子を登り高巻くと狭い登山道に落石注意を促す看板もある。2つの涸沢を渡り幅広の谷を詰めると秋の青空稜線上に山荘が頭上高く見えてくる。呼吸法の話となり、踏込む時にゆっくり吐くように意識して歩いた。矢印、丸が付いているガレ場が続く、浮石に気を付け歩くと瓦礫の階段状になり山荘に着く。前衛の常念や蝶の展望もあったが次第に雲厚く、暖かい巻きストーブのラウンジで食後もまったりする。宿泊客100人ほど。20時半就寝。Mは19時45分。

18日(日) 朝食の弁当を食しテラスに出るとガスに包まれ風が吹き寒い。岩峰上空の陽光は怪しげに揺れ、眼下の深い岩肌と雲海時空をカメラに残した。奥穂高に向かうと鉄梯子周辺は霧で濡れ、さらに強い西風に体が冷えた。体感温度-6度? (槍ヶ岳観測データ 3080mの6時は4.2度 西風10.2m) 予想通り晴れてきたが風冷たく奥穂高岳下でカッパ上下と手袋・ヘルメット・ハネス・ギアを着けて難路に入る。馬の背に緊張感や不安はない。気温も上昇してきたので最初の休憩鞍部でMはカッパを脱ぎジャンダルムは皆西穂側から登った。360度の展望を得ながらアップダウンを繰り返して進めば三連休の荷揚げ用ヘリコプターが忙しく飛交う。天狗、間ノ岳辺りでジャンに向う登山者が多く、視界のない西穂高岳で装備を解除しゆっくりする。出番のない重たいザイルを持つK氏に感謝し、ロープウェイ最終時刻が気になるMは少し先を歩き赤い実をつけたナナカマドで待った。愛らしい雷鳥5羽に急ぐ脚を止め、ピラミットPも独標も快調に飛ばし賑わう西穂山荘に着く。半袖になって水分を補給すると直ぐにサックを担ぎ、恐ろしいほど登ってくる登山者に詫びながら優先させてもらう。ロープウェイから新穂高の駐車場が見えてくると昨朝出発したと思えないほど時が過ぎたように感じた。薄暗がりの広い露天風呂だけの静かな湯殿が気に入り、深まる夜を走った。

感想:

まずまずの天候に恵まれ難しさはなかった。丁寧に歩き岩稜縦走の醍醐味を存分に楽しむことができた。K夫妻と一つの通過点をご一緒できたことありがたく思う。高所の9月は寒暖差が激しく、風が吹いたときの体感温度はこちらの真冬以上の寒さになるので天候や体力に不安ある時は次の機会にしたい。ガレ場、サレ場、登攀に慣れておくことも大切に思います。

